



福井の名所探訪⑱

宮ノ下コスモス広苑 (福井市)

福井市街地から越前海岸に向かって大安寺を越えると福井医療短大の近く宮ノ下地区に東京ドーム10倍以上の敷地に、約1億本のコスモスが咲き誇る福井宮ノ下コスモス広苑。9月上旬から10月にかけて花のメルヘンの世界を楽しむことができ、9月下旬にはコスモスマつりが開催されます。

理 念

高齢期の方々の尊厳を踏まえ、こころ温まる医療の提供と地域から愛される病院を目指します。

基本方針

- ① 認知症疾患の特性を踏まえ、個別性の高い医療と温かみのある療養の提供
- ② 認知症に関する介護教育と啓発活動の充実
- ③ 地域の医療・保健・福祉との一層の連携と協働
- ④ 働きがいのある職場づくり
- ⑤ 職員一人ひとりが自覚し、健全な病院運営への努力

患者様の権利に関する宣言

- ① 最善の医療を平等に受ける権利
- ② 選択および自己決定する権利
- ③ 意識のない患者様および法的能力のない患者様の権利
- ④ 患者様の意思に反する処置・治療
- ⑤ 十分な説明を受ける権利
- ⑥ 情報開示を求める権利
- ⑦ 個人情報およびプライバシーを保護される権利
- ⑧ 健康教育を受ける権利
- ⑨ 個人の尊厳を守る権利
- ⑩ 宗教的支援を受ける権利
- ⑪ 退院後も治療や福祉を受ける権利
- ⑫ より良い環境で治療を受ける権利
- ⑬ 通信・面会を自由に行う権利
- ⑭ 退院や処遇改善の請求を行う権利



すこやか講座

今回は排泄ケアについて
ご紹介します。

排泄ケアは介護の基本

人が身体的に成熟し、やがて衰えていくというのは自然の流れです。また、人間の生活動作は2足歩行が基本です。そのため膀胱や内臓を支える骨盤底に長い年月を通して大きな負担がかかります。この骨盤底の衰えも失禁の一因で、加齢とともに失禁しやすくなります。失禁は、年齢を重ねれば、誰にでも起こる自然な衰退の現象と受け止め、高齢者の排泄障害を、さりげなく受け止めていくケアを心がけていきましょう。

*人間としての尊厳に関するケア

日常生活動作能力（ADL）が加齢によって徐々に衰える、というのは自然な流れです。そうはいつでも、失禁をするようになった自分を認めたくない心理は誰にでもあるものです。「失禁を人に知られたくない」「自分で処理したい」「オムツをするのはつらい」…そうした高齢者の本音はオムツを拒否して外す、汚した下着やオムツを隠す、暴言で介護者にあたるなどの行動となって表れることがあります。介護者は問題行動にとらわれるのではなく、その裏に潜む本音をくみ取りましょう。むやみに行動を制限したりせず、言葉のかけ方に配慮しながら、自尊心を尊重したケアができるように心がけたいものです。また、適切な用具を選ぶことが、より快適なケアにつながることもあります。心理的なケアに加えて、技術的なケアを合わせて考慮することが大切です。

*排泄ケアは介護の原点

排泄は羞恥心を伴うプライベートな行為だけに、排泄障害を起こすと、社会活動への参加意欲が低下したり、自らの存在価値を否定したりするようになりがちです。排泄の支援は、生活全般の支援にもつながります。



障害の進行に合わせた段階的ケアの必要性

障害が進んでも、言葉かけや、上手くできたことを一緒に喜ぶ姿勢を持ち続けることが、本人の意欲へとつながります。

*1回の成功を一緒に喜ぶ姿勢が大切

排泄の機能は、段階的に進行します。高齢者に声をかけたり同行してあげれば自分でトイレに行って排泄できる段階から、10回のうち1回失敗したり、やがて9回失敗するような状態になるかもしれません。しかし、そうなっても9回の失敗を責めるのではなく、1回の成功を喜び合う姿勢は最後まで必要です。たとえオムツが必要になっても、この1回の成功のためにトイレやポータブルトイレへ誘導する、あるいはトイレやポータブルトイレでオムツ替えをするケアは、本人の生活意欲に大きな影響を与えるからです。



障害の進行を段階的にとらえ、昼と夜の違い、尿のトラブルと便のトラブルの違い、その人の価値観や状況・現象などをよく観察して分析し、ケアの目標を立てていくことが大切です。ケアの目標は、少しでも自立へ近づく方向に向けておきたいものです。

家族は今…

感謝しています……

Y・N

福井県立すこやかシルバー病院で最初に院長の診察をして頂きまして早や5年以上になります。通院、デイケア、東病棟入院と大変お世話になり厚く御礼を申し上げます。

僕が素晴らしいと思った事は診察を待っていると院長が笑顔で小さな声で〇〇さんと、肩をとんとんと叩いて呼んで下さる事です。患者に刺激を与えない心遣いです。また、時間をかけて丁寧に診察もして下さいます。本当に真心診察だなと思います。現在、食事もトイレも着替えも自分では何も出来ない妻を笑顔で親切に介護されるスタッフを見るたびに心を打たれます。デイケアまた、東病棟でもあった事ですが、トイレ以外でしてしまった時でも、先生やスタッフは「おしっこが出て良かったね。」とおっしゃいました。僕は「なんと優しいんだ。」と涙が止まりませんでした。

午後2時からの点呼で一人一人に「こんにちは。」と明るい声で呼んで頂くと患者様も元気が出ます。それに体操や歌、また社会問題の解説は僕も勉強になります。本当に素晴らしいと思います。

毎日シルバー病院に面会に来ていますと患者様とも顔なじみになります。お話しすると、「はるかに僕の心より美しいな。」と感じます。

緑が多く、空気がきれいで、春になるとサクラサク、健康の森にあるすこやかシルバー病院の患者様は日本一幸せだと思います。



すこやか探検隊

今回は絵画や写真の展示物や、盆栽など病院内の癒しスポットの紹介です。

季節の展示コーナー



外来の自動販売機の横には季節ごとに素敵な絵画や写真が掲示されています。

風景画や写真など心癒されるコーナーとなっています。ぜひ足を止めてご覧になって下さい。



こちらの写真は放射線技師の中村さんが撮影したものです。趣味の写真で県内のあちこちを撮影しているそうです。現在は越前海岸の棚田、朝倉氏遺跡の風景写真が掲示されています。中村さんは、外来の待ち時間等に見てもらって、皆さんの気持ちが少しでも豊かになってくださればと願って写真を掲示しているそうです。



★写真のワンポイントアドバイス★

- ①風景の撮影は朝夕の光を利用して撮ると絵になるそうです。
- ②写真撮影には秋から冬のシーズンが最適だそうです。



中庭の盆栽コーナー

こちらは中庭での情緒あふれる雰囲気盆栽コーナーです。右の写真はたわわに実ったアケビです。患者様やご家族の方が昔を思い出すなど、気持ちが和やかになってもらえたらと上田薬局長が丹精こめて育てております。

でもアケビの鉢になぜだかミニトマトの茎が……？
皆さん是非足を止めてご覧になって下さい。



なぜ
トマト？



早く食べたいなあ……



デイケアだより

7月 🍃 七夕

7月7日の七夕にちなみ、利用者さん達に願い事を書いていただきました。みなさん、何と書こうか熟考した結果、やはり『健康第一』『家内安全』が多かったです。書いていただいた短冊は、



どう書こうかなあ……



8月 🍃 スイカ割り



どこやろなあ……エ～イ！
あ～、当たらんんだ～(笑)

もっと左、左！



ある暑い一日のこと。男性利用者さんが手塩にかけて育てられたという、大きくて立派なスイカをいただきました。

夏にスイカといえば、スイカ割り!!……ということで、レクリエーションの時間にスイカ割りをしました。タオルで目隠しし、他の利用者さんから「右、右!」「左や、左!」「そこや!!」など、にぎやかな声が飛び交いました。

甘くて美味しいスイカを、
ごちそうさまでした☆



🍃 流しそうめん

朝晩が少しずつ涼しくなってきた8月下旬に、院内の中庭にて流しそうめんを開催しました。前日まで天候が読めず心配しましたが、過ごしやすい天候の中、開催することができました。そうめんの他に、錦糸卵やプチトマト、フルーツなどいろいろな具材を流しました。

「はあ～、お腹はちきれそうやわ～(笑)」と楽しんでいただけて良かったです。



あららら、
いってまた～



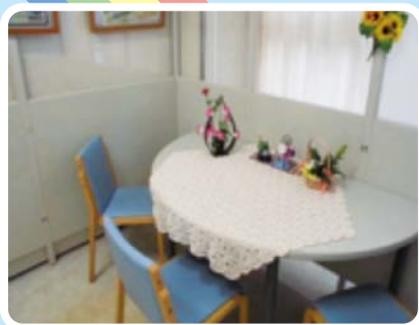
上手に取れた～☆



The 病棟



西病棟の面会室をリニューアルしました



家族との時間をより快適に過ごして頂けるよう、西病棟面会室をリニューアルしました。絵画・写真を展示して、患者様と家族が落ち着いて過ごして頂ける環境を整えました。面会の際は是非ご利用ください。

私のくつろぐ時間(マイ喫茶)



患者さんの好きな時にナース室に来てもらい、自分好みの飲み物を作り、お菓子を食べるなど気分転換の時間を過ごして頂いています。患者さんは「コーヒーは粗挽き、砂糖は多めに入れたいの。」など独自のこだわりがあり、自分好みのブレンドでコーヒーを作る楽しみを感じて頂いています。



ブルーベリー初収穫



去年の11月に植えたブルーベリーの苗が約50cmまで大きくなりました。6月～8月にブルーベリーも食べ頃を迎え、収穫を楽しみました。



はじめまして!!



新人紹介



医師
浅田 朋彦

こんにちは。はじめまして。医師の浅田です。認知症は現在のところ根治的治療が難しい病気ですが、認知症になられても安心して生活ができるように日々努めております。ところで、認知症患者さんとの会話について（「〇〇さん」には、個々の患者さんのお名前が入ります。）

1. 簡単な言葉や短い文章で穏やかに安心できるような高さの声で話しましょう。
2. 尊敬の念をもった対話を心掛けるようにして、子供に対するような話しかけを避けましょう。
3. 〇〇さんが会話に集中できるように、話をするときはテレビやラジオのような注意を妨げるようなものは最小限にしましょう。
4. 〇〇さんが話しかけに応答しなくてもあるいは応答できない状態でも会話の中にその〇〇さんを含めるようにしましょう。〇〇さんは応答できなくても聞き取ったり、理解できればそれで十分なのです。
5. 〇〇さんをせかさないで。十分な時間を取ってあげて！
6. 手がかりとして身体表現（ボディランゲージ）を読み取って！

（出典 “Practical Tipes for Daily Life” UCSF Memory and Aging Centetを改変）
ということが薦められています。

時と場合により難しいこともありますが、可能な限り日々実践していきたいと思えます。どうかよろしく願いいたします。



認知症看護認定看護師
河合 明泰

私は、東京都清瀬にある日本看護協会看護研修学校を卒業し2014年度の認知症看護認定看護師に認定されました。認知症看護とは、認知症という疾患を抱えていても、その人らしく生活できるよう認知症の人やご家族を含めたケアを提供することと考えております。

認知症の人の尊厳を尊重し、不安や苦痛が少しでも緩和でき、患者さんがこれまで生きて来られた生活史や全体像を考察しながら個別的なケアが提供出来るよう心掛けていきたいと思えます。

認知症の人の中には日常生活の中で、自らの訴えを出来ない方もいらっしゃいます。看護者がいかに苦痛を察知し、異常の早期発見や合併症を予防することが重要であり、専門的知識や科学的根拠に裏付けされたケアが必要となります。また、認知症の人は入院などの環境の変化により病状が悪化することもある為、看護者も環境の一部であることを念頭に置いたケアを心掛けたいと思えます。

皆様方に「すこやかシルバー病院を選んでよかった。」と思って頂けるような看護を目指していきたいと思えますので、よろしく願いいたします。



平成26年度 福井県立すこやかシルバー病院研修案内

ケア専門職の方を対象にした研修

研修名	開催日	研修時間	主な研修内容	定員
認知症の進行段階別ケア	11月7日(金)	午前9時30分～午後0時40分 (午前9時から受付)	● 認知症進行段階別症状とケア ● 事例検討	50名
認知症の原因疾患別ケア	11月7日(金)	午後1時40分～午後4時50分 (午後1時10分から受付)	● 認知症原因疾患別症状とケア ● グループワーク	50名
高齢者に関する制度と医療連携	12月5日(金)	午前10時00分～午後0時10分 (午前9時30分から受付)	● 今さら聞けない介護保険入門 ● 認知症専門医療機関との連携	50名
若年認知症ケアの理解	12月13日(土)	午後1時30分～午後3時40分 (午後1時から受付)	● 若年認知症当事者が望む支援 ● 高齢者とは異なる視点での環境づくり、配慮	50名
認知症高齢者への食事援助と口腔ケア	12月19日(金)	午前10時00分～午後3時50分 (午前9時30分から受付)	● 高齢者への食事援助のポイント ● 高齢者の口腔ケア	50名
高齢者への排泄援助とスキンケア	2月27日(金)	午前9時30分～午後0時 (午前9時から受付)	● 高齢者への排泄援助とスキンケア ● 認知症高齢者への排泄援助の実際	50名
高齢者の世界を体験しよう	3月6日(金)	午前10時00分～午後4時 (午前9時30分から受付)	● 高齢者の特徴と合併症 ● 高齢者疑似体験(演習)	50名
認知症高齢者への作業療法	3月13日(金)	午後1時30分～午後3時 (午後1時から受付)	● 認知症高齢者への作業療法 ● 演習	50名
リアリティオリエンテーションと回想法の実践法	3月20日(金)	午後1時30分～午後4時30分 (午後1時から受付)	● リアリティオリエンテーションと回想法の基礎知識、実例を交えた実践法	50名
せん妄、うつ状態に対するケア	3月27日(金)	午後1時30分～午後4時30分 (午後1時から受付)	● せん妄、うつ状態の特徴、背景、ケア	70名

ケア専門職の方を対象にした実習

実習名	開催日	実習時間	定員
デイケア実習	11月11日(火)～12日(水) 2日間	実習1日目:午前9時30分～午後5時(午前9時から受付) 実習2日目:午前10時～午後5時	5名

研修場所／福井県立すこやかシルバー病院 2階会議室

実習場所／福井県立すこやかシルバー病院 認知症デイケア

お問合せ／福井県立すこやかシルバー病院 介護教育部

TEL(0776) 98-2700



福井県立すこやかシルバー病院主催 講演会のご案内

認知症終末期患者に対する人工栄養法について考える ～食べられなくなったらどうしますか?～

主な講演予定内容

- 認知症の終末期について
- 認知症終末期の嚥下障害について
- 人工栄養法について
- 認知症終末期における人工栄養法の選択、欠点、利点
- 人工栄養法を選択しない時の家族、医療者の心理 等

講師 東京大学大学院人文社会系研究科

上廣死生学・応用倫理講座 特任准教授 会田 薫子氏

日時 平成26年11月22日(土) 14:00～16:00

会場 福井県生活学習館(ユウ・アイふくい) 多目的ホール
福井市下六条町14-1

参加料 無料

お問い合わせ・お申し込み先 電話 0776-98-2700

